

## 説教ポイント

わたしの願いがかなうとき

ヨハネ一四・一三〜一七  
詩篇三七・二三〜二五

だれしも子どもの頃、経験があるでしょう。

「おかあさん、ポテトチップス食べたい。」

おねがい、買ってー」といっても

「買いません、がまんしなさい!」とびしやり。

(私のことぜんぜん、分かってくれない…)と心でつぶやきながら、夕食の時間も終わるころ

「今日はよくがまんしたわね。はい、これ」

差し出してくれたのは、フルーツ入りミルクプリン。手作りのやさしい甘さ。

「おいしい」。

そう、お母さんが最初にお願いを聞いてくれなかったのは、決して自分のことを嫌いなわけでも、理解していなかったからでもない。夕食前な

のにポテチなんて身体によくない。心のこもった本当においしいものを食べてほしい。私のことを、私以上に考えてくれていたのです。

神さまへのお祈りととてもよく似ています。

お祈りも最初、こうなったらいいのに、あれがほしいのにといろいろ祈ってみるが、なかなか叶わない。やがて腹がたったり、お祈りなんてとあきらめたり…。これを「自動販売機の祈り」と呼びます(ひろさちや)。現代の便利な自販機は百円いければ願ったものがすぐ手に入る。お祈りも同じと勘違いしてしまう。しかし…

お祈りは「自販機」ではありません。先ほどのお母さんのように、神さまは、私以上に私のことを考え本当に素晴らしいもので包んであげたいと願っている方。だから、私たちは安心して心をひらいて、祈ることができるのです。